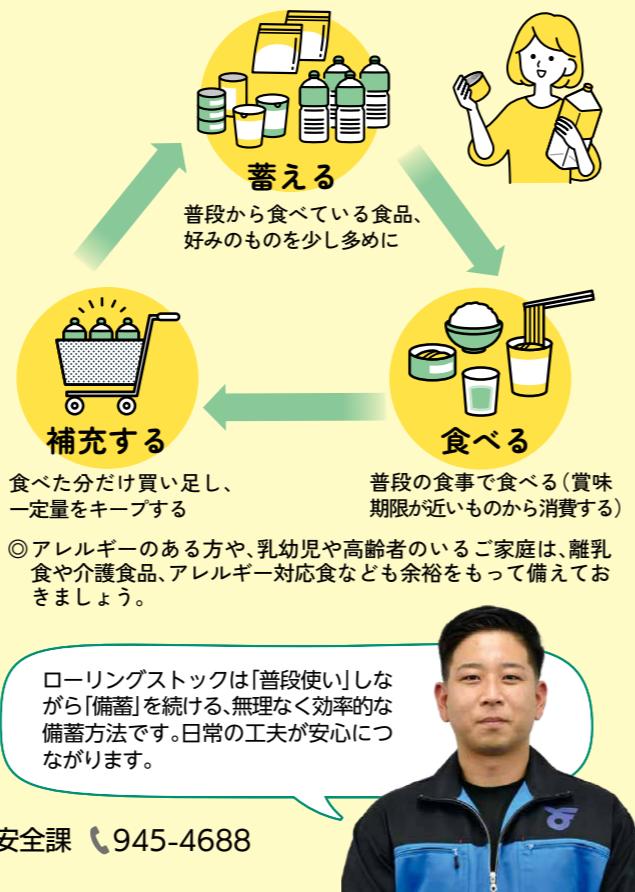


いざという日に備えて ローリングストックを取り入れよう

災害時は、電気・ガス・水道といったライフラインや物流が止まり、食料や日用品が手に入りにくくなることがあります。非常に備えて「必要最低限の日数分の備蓄」を普段から保つことが重要であり、**最低でも3日分、できれば1週間分の食料と水の備蓄**が望ましいとされています。

ローリングストック向きの備蓄品の一例

- 飲料水：1人あたり1日 約3リットル ×人数×3～7日分
- 常温保存ができ、調理が簡単または調理不要な食品(缶詰、レトルト、乾麺、パックご飯など)
- 日持ちする野菜・果物(たまねぎ、じゃがいも、リンゴ、ミカンなど)
- インスタントの味噌汁やスープ
- 菓子・嗜好品など



お問い合わせ 生活環境安全課 945-4688

地域ぐるみで 避難行動要支援者提供名簿を作成します

避難行動要支援者提供名簿とは

災害時に自力で避難することが難しい方の情報を登録する名簿です。登録情報は避難支援関係者と共有され、見守りなどを通して災害時の安否確認・避難支援につなげます。



対象となる方

- 要介護認定1以上の在宅要介護者
- 高齢者のみの世帯の方(65歳以上)
- 身体障害者手帳1級または2級の方(内部疾患者は除く)
- 療育手帳A1またはA2の方
- 人工呼吸器装着難病患者(県に同意済みの方)
- 登録を希望する方(過去に申し出をして登録された方を含む)

避難支援等関係者とは？

東部消防組合、与那原警察署、社会福祉協議会、民生委員・児童委員、区長・自治会長
※個人情報は適正に管理され、避難支援以外には使用されません。

提供される名簿情報

氏名、性別、生年月日、住所、電話番号、世帯状況、支援を必要とする理由
※提供にあたり、与那原町個人情報保護制度運営審議会の答申を得ています。

お問い合わせ 福祉課 945-1525

防災特集 第14回地震・津波防災避難訓練 その一歩が、明日の命を救う



災害はいつ起こるかわかりません。町は11月5日の「津波防災の日・世界津波の日」、与那原町全域で地震・津波防災訓練を実施しました。いざという時に自分たちがどう行動すべきかを確かめました。

「午前10時に地震発生、10時03分に大津波警報、10時28分に本町沿岸部に津波到達」という想定で避難訓練を実施。海拔11メートル未満の津波浸水想定区域にある保育所・幼稚園・学校・高齢者施設37施設、約6,200人が参加しました。

訓練に参加した施設では、シェイクアウト訓練(姿勢を低く身を守る動作)をはじめ、施設が決めている避難所への避難、施設内での垂直避難^(*)を各施設ごとに実施。初動の対応や避難経路の確認などを通じ、防災力の向上を図りました。

^(*) 垂直避難…災害時に現在いる建物や近隣の建物などの高い階層へ移動する避難方法。激しい降雨時や夜間など外に出ることが危険な場合や、時間がない場合などに有効で、重要性が高まっています。



訓練後に実施した施設管理者向けアンケートでは、悪天候で防災行政無線が聞き取りづらかったことなどが挙げられました。

災害時の情報の伝達や取得は非常に重要であり、現在、町内の各公園や一部の公民館などにおいて、防災行政無線のスピーカー機能強化を目的とした更新工事を進めています(工事は令和8年3月末頃に完了する見込みです)。

災害から命を守るために、日々の備えが大切です。ぜひ、ご家族や職場などで、避難場所や経路、備蓄、安否確認方法などについて話し合ってみてください。



知念高校の綱がるプロジェクト 生徒たちが防災行動計画を発表

知念高校では、2年生の各クラスに、企業や行政の担当を講師に迎え、地域課題の解決を探る「知高！綱がるプロジェクト」を実施しています。

今回の地域課題のひとつとして、町生活環境安全課は「マイ・タイムライン(防災行動計画)」の作成を提案。生徒たちは与那原町の地図とともに災害を想定し、避難行動を時系列で整理した防災計画をグループごとに発表しました。

複数の避難ルートの確認、備蓄品の準備、避難所での衛生管理やプライバシー確保など、具体的で実践的なアイデアが多く示され、有意義な発表となりました。

